



となる花や葉っぱや実、虫探しの対象となるバッタやカマキリなど、探しものには事欠きません。

草地をつくるのは、他のビオトープに比べて簡単です。範囲を決めて、草を生やすだけです。ただ、待ち続けても草が生えない場合があります。また、生えてきても、外来植物ばかりということもあります。土に地域在来の植物の種が含まれていないのです。この場合には、園外散歩の時などにチガヤ、カタバミ、ヘビイチゴ、エノコログサ、イヌタデなど地域在来の植物を見つけて、種を採集し、蒔いてみてはいかがでしょうか。

草地の管理は、主に草刈りです。バッタやコオロギの仲間には短い草丈を好む種類もあります。草刈りをしないところ、年に1回刈るところ、毎月刈るところなど、区画を分けて管理を行います。なお、背の高い同じような草がたくさん生えてきたら、外来植物の可能性があります。葉や花の形から種類を確認し、外来植物であれば根から抜きとりましょう。

一方、園児が利用しすぎて、踏圧により草地に草が生えなくなってしまったといった園も見られます。その場合には、パッチ上に虫のために踏み入らない場所を設けて、草が生えてくるのを待ちましょう。

水辺をつくる

水辺は、アメンボ、トンボ、ゲンゴロウの仲間など、想像以上に様々な生きものを呼び込み、とても観察がしやすいのが特徴です。また、水に触ったり、叩いてみたり、水面の表情の変化に園児は夢中になります。

水辺をつくるにあたっては、安全上の配慮から、田んぼのように浅めの水深にしつつ、その中でも特に浅いところ、少し深いところなどができるように、水深に変化をつけます。井戸水や水道水の他に、雨水もタンクに溜めて有効に活用できるようにしておくとい良いでしょう。



水辺にも水生植物を生やすことで、いろいろな種類のトンボなどを呼び込むことができます。地域の水辺から株を移植したり、冬に地域の田んぼから土を少量もらい受けて流し込んでもいいでしょう。土に含まれている種から、水生植物が芽を出します。

水辺の管理は、定期的な水の補充、水面を確保するための増えすぎた水草や藻の除去など、他のビオトープに比べると、いろいろとあります。管理の体制も、計画時に考えておくとい良いでしょう。

樹林（茂み）をつくる

茂みは、子どもの冒険心と創造力をくすぐります。中低木でできたトンネルをくぐり抜けたり、基地をつくったり、木の実や落ち葉を集めたりと、たくさんの遊びが生まれます。



樹林をつくるにあたっては、将来枝葉が伸びることをある程度想定して、植える樹種や本数、植栽の間隔を決めていくことが大切です。面積が限られている場合には、大きくなりすぎない樹種を中心に植栽すると、管理が楽になります。

さらに自然に似せる工夫として

園庭を地域の自然に似せる工夫は、まだまだあります。「起伏をつける」「築山をつくる」「地面をあえてデコボコにする」など、園庭の地形からいじってみるのも工夫の一つです。

また、フェンスなど人工物があれば、アケビやカラスウリなど地域在来のツル植物で覆ってみてもいいでしょう。秋に熟した実は、園児の遊びの材料になります。

倒木を置いてみても楽しいでしょう。カミキリムシやタマムシなどが産卵しにやって来るかもしれません。園児も集まり、きっと新しい遊びが始まります。



自然が持つ 保育力を 生かす

4

地域の自然に似せる

「園庭ビオトープをつくるにあたってのポイントとは何ですか？」

今回は、この質問にお答えします。園庭にビオトープをつくる時には、地域の自然になるべく似せることが大切です。ドイツでは、「地域の自然に近づける」という表現を使ったりします。

似せるためのポイントは、地域の「自然のもの」を選んで、園庭に生やしたり、植えたり、放したりすることです。では、自然のものとは、何でしょう。

生きものの中には、「自然のもの」と、「自然ではないもの」があります。自然のものとは、地域の自然に元々暮らしている在来動物を指します。一方、自然ではないものとは、地域の自然には本来いない、飼育・愛玩動物、園芸種、農作物、外来種が当てはまります（図①）。

このことを踏まえ、植物を植える時には、広さや

園庭ビオトープづくりに あたってのポイント

● 求めるビオトープの種類に応じて、自然のもの、す
● なわち地域在来の野草や樹木を複数種選び、自然を
● まねて配置するようにします。そうすることで、園
● 庭が地域の自然の景観に近づきます。園児は、園庭
● にいながら、地域の自然本来の四季の移り変わりを
● 感じ、自然の楽しさや美しさ、不思議さに出会うこ
● とができます。

● なお、虫や魚などをビオトープに放す場合には、
● たとえ自然のものであっても慎重に行う必要があり
● ます。ある園では、ビオトープに草が生えてきたの
● で、早速バッタを地域からたくさん捕まえて放した
● ところ、数日後には姿を消してしまいました。バッ
● タにも好みの野草があり、好みの草地環境がありま
● す。園長先生は、「バッタも無理矢理、連れてきて
● はいけないことを学びました。かわいそうなことを
● しました。自然にやって来るのをしばらく待つこと
● にします」とおっしゃっていました。待つこと1年、
● 園庭ビオトープでバッタの姿を見つけた時は嬉し
● かったそうです。今では、バッタ採りが園児の日課
● になっているとのことです。魚についても同様で
● す。放流した魚がひもじい思いをしないように気を

つけたいものです。

「自然のもの」の例

シジュウカラ、ツバメ、
アマガエル、ニホントカゲ、
アゲハチョウ、ヤマトシジミ、
カブトムシ、ナナホシテントウ、
アブラゼミ、エンマコオロギ、
オオカマキリ、オンブバッタ、
シオカラトンボ、ドジョウ、メダカ、
ホトケナザ、スギナ（つくし）、
スミレ、カタバミ、ガマズミ、
エノコログサ、ススキ、ヤマハギ、
フジバカマ、アケビ、カラスウリ、
ヤマザクラ、コナラ、エゴノキ
…など、
もともと地域に生活している
さまざまな野生の生きもの

「自然ではないもの」の例

飼育・愛玩動物

にわとり、チャボ、
あひる、あいがも、
ハムスター、
モルモット、
フェレット、
いとうさぎ、
犬、猫、
馬、牛、ひつじ、やぎ、
金魚、錦鯉、
ヒメダカ
…など

園芸種、農作物

コスモス、ひまわり、
チューリップ、パンジー、
あさがお、おしろいばな、
稲（米）、大根、人参、
ねぎ、ゴーヤ、ピーマン、
トマト、ミニトマト、
キャベツ、とうもろこし、
さつまいも、いちご、
さくらんぼ、みかん、
ブルーベリー、
桜（ソメイヨシノ）、
芝生
…など

外来種

アメリカザリガニ、
ウシガエル、
ミドリガメ（ミシシッピ
アカミミガメ）、
外国産のクワガタムシ、
アライグマ、
ブラックバス、ブルーギル、
ゲンゲ（レンゲ）、
シロツメクサ、
セイタカアワダチソウ、
オオキンケイギク、
キショウブ、
クレソン、ホテイアオイ、
シダレヤナギ
…など

草地をつくる

草地は、子どもたちにとっ
て宝箱です。ままごとの材料



※ この「自然のもの」の例は、主に関東地方の平野部を基準としたものです。日本の自然は実に多様で、同じ種であっても地域によっては「自然ではないもの」になってしまいう場合がありますので、まずはご自身の住む地域の自然について調べてみましょう。

図①「自然のもの」と
「自然でないもの」の例